

南区 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称		実施主体	
子育て世代等外国人支援事業		南保健センター	
事業目的	事業内容	活動指標	R2
外国人家庭への支援には「言葉の壁」が常につきまとうことが大きな課題である。特に保健師等専門職が支援の中で扱う言葉は特殊であり、会話の内容も込み入ったセンシティブな内容が多いことから、多言語に対応できる対人通訳ツールを導入することで、情報が届きにくい子育て世代の外国人に対し、通訳を介してコミュニケーションを円滑にし、情報の提供や支援の質を高める。	多国籍外国人への適切な子育て支援を行うため、タブレットによるテレビ電話を用いた多言語に対応できる対人通訳ツールを導入する。	利用者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・母国語で相談できる安心感が得られ、不安の軽減に繋がった。 ・今まで言葉(コミュニケーション)の壁で諦めていた相談ができた等
①妥当性	②協働の視点	③インパクト	④効率性
◎ テレビ電話通訳により、双方の意思疎通が円滑に行える。そのため、外国人の困りごとなどに沿った支援や情報提供ができ、外国人家庭を孤立させないことができる事業である。	△ 個別支援を主とする事業であるため、他団体等との協働は図りにくい。	○ 南区の子育て支援の特性として外国人家庭への支援を挙げることができる。	◎ 通訳アプリでは長文の会話を行うことが困難であったり、文字入力が面倒だったが、対人通訳ツールでは、対応時間が大幅に短縮された。
⑤自立発展性	総合評価		
△ 個別支援を主とする事業であるため、発展性は得られにくいだが、外国人が子育てしやすいまちづくりに寄与することができる。	○	保護者へ生活や子育ての情報を正しく伝えられること以外に、保護者が専門職に母国語で相談できる機会があることで安心感が得られ、育児不安の軽減が期待できる事業である。	
今後の方向性(課題、改善提案等)			
拡充 継続 見直し 廃止	外国人家庭の言語による不安の軽減ができており、継続実施が望ましい。		